

松本のカフェ

「エラーール」仲間入り

フランス製 幻のピアノそろろう



1909年に製造された「エラーール」㊦。奥の「プレイエル」とともに幻のピアノとされている＝松本市波田の「プレイエル」で

アンティークの鍵盤楽器が多く置かれている松本市波田のカフェ「プレイエル」に、一九〇九年製造のフランス製ピアノ「エラーール」が仲間入りした。店の名前にも使われ、作曲家ショパンが愛用したことで知られるピアノ「プレイエル」(二三年製造)とともに、幻とされるフランスの二大メーカーのピアノがそろった。

エラーールは家具職人だったセバスチャン・エラーール(一七五二―一八三一年)がピアノ職人に転向し、一七七七年に設立した。叙情的で繊細な音を奏でるプレイエルとは対照的に、鍵盤の高速連打を可能にしたことでベートーベンやリストなどの技巧派が好んで使った。

ピアノは浜松市の知人から今年三月に譲り受けた。製造から百年以上たっているが、現在でも演奏できる。全面に家紋風の象眼が施されており、オーナーの古畑博子さん(六三)は「演奏可能な状態でプレイエルとエラーールが置かれているのは全国でもここぐらいなので」と話す。

店は先月、十周年を迎えたばかり。「人間の命は限りがあるが、ピアノは大事に受け継いでいけばいつまでも伝わる」と古畑さん。エラーールは特別な催事以外では弾かず、観賞用として保存する考えだ。

(佐野公彦)

2012年
5月16日(水)
中日新聞

代表団五人が市役所 史やチベットの山々を
紹介した本、チヨモラ